

平成28年司法試験 合格体験記

平成23年度修了（未修コース）堀 真之

毎年、司法試験の合格発表は9月の上旬に行われる。ちょうど自分の誕生日と同じ頃だ。数年来、不合格の結果を受けた後に自分の誕生日を迎えるという、何とも残念なスパイラルを繰り返してきたのだが、今年ようやく合格という形でそれを終えることができた。合格を知ったときは、嬉しいというのでも、ほっとしたというのでもない、なんだか不思議な感覚であったことを覚えている。

不合格を繰り返した岡山での暮らしが苦しかったかと問われれば、決してそんなことはない。むしろ楽しい記憶のほうが多いと思う。特に友人、知人関係は一生物の関係を築くことが出来たと自負している。連絡の取れなくなってしまった人も沢山いるが、いまだに連絡を取り合うローの友人たちとは僕が実家のある大阪に戻った後も、毎週のように遊びまわっている。先に弁護士になった者、公務員になった者、会社勤めの者とそれぞれ進んだ道はまちまちだが、30歳を超えても馬鹿をやって笑い合っている。お世話になったローの先生方は、卒業してしばらく経つ今でも、岡山に戻れば変わりなく声をかけていただいている。去年落ちてふさぎこんでいた僕を激励してくださったバイト先の事務所の先生方や、事務員の皆さんには、事務所に伺えばいつも笑顔で出迎えていただいている。このような岡山での人間関係は、本当にありがたいことだと思っている。

これから和光で、続いて大阪で司法修習を受ける。その先はどうなるかわからないが、おそらく関西にいることになると思う。岡山に戻ることはずいぶん少なくなるだろう。しかし、僕がどこに行こうと、岡大ローで築いた人間関係は、僕に一生ついてまわるだろう。そして僕の人生にとって貴重な財産となるだろう。合格体験記といいながら岡山での人間関係のことばかり書いてしまったが、僕にとって岡大ローで得た最大の財産は合格ではなく、人だったと今にして思う。

今、社会ではロースクール制度のあり方が問われている。予備試験経由での合格者も増え、あたかもローでの学習が無意味だというような人さえいるが、決してそんなことはないと思う。少なくとも僕は、岡大ローで学んでよかったと思っている。そして、岡大ローがこの先も、良い意味で変わらないでいて欲しいと思っている。